

北地域後援会は我孫子1～4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア



しらかば北

発行責任者
井上文夫

我孫子市議会議員選挙 11月19日(日)投票日

船橋 優さん 我孫子市政に挑戦



このたび、2期8年の野村さだおさんの後を引き継ぎ、市政に挑戦いたします。

69歳 被爆地の長崎出身、長年ゼネコンの建設現場で働き、退社後自営で建設関係に携わり、土建組合の役員として建設労働者が抱えている問題、また原水爆禁止運動・平和運動に真剣に取り組んできました。

この経験を、今度は市政のなかで生かしたいと思えます。みなさんのご支援を心からお願いいたします。

船橋まさるさんのこと

- ・1953年生まれ
- ・長崎市出身
- ・工業高校建築科卒
- ・ゼネコン40年勤務
- ・土建組合加入
- ・原水爆禁止世界大会毎年参加
- ・共産党入党
- ・踏切りで毎朝子ども見守り
- ・中峠台在住
- ・趣味はパートウォッチング 野菜作り



バトンタッチへ お願い

2期8年のご支援ありがとうございました。

今期をもって引退し、船橋まさるさんに後を託したいと思えます。

これまで私を支えてくださったみなさんに感謝とお礼を申し上げます。市民のみなさんと一緒に我孫子駅にエレベーターを設置することができました。

これからも船橋まさるさんと一緒に、よりよい我孫子市を目指してまいります。

候補者の交代について

北地域後援会長 井上文夫

この度の11月の我孫子市議会議員選挙において、北地域を担当していた日本共産党の野村貞夫議員が勇退し、野村さんに代わって船橋まさるさんが立候補することになりました。

野村さんはこれまで2期8年にわたり、地域の人たちの要求に耳をかたむけ、その実現のために先頭に立って頑張ってきました。

特筆すべきは8年前の立候補の際に公約した「我孫子駅ホームのエレベーター設置」です。地域の人たちと一緒に、国土交通省やJRなどとなり強く折衝を重ね、8年後に見事に実を結びました。

その他、我孫子駅バス停の段差の解消や我孫子2丁目交差点のスクランブル化など数多くの問題を解決してきました。

野村さんは11月末の任期まで全力で頑張りますが、今までの労をねぎらいたいと思います。

船橋まさるさんは、中峠台在住で北地域のみなさんには、なじみが薄いと思いますが謙虚で誰とでもすぐに打ち解けて話が出来た人です。

また、子ども好きで毎朝自宅前の踏切の見守りをしていますし、PTA会長も経験したことから教育問題でも大いに力を発揮することでしょう。

また、すぐに実行に移すその行動力から、北地域のみなさんの要求もどんどん取り上げて、実現のために頑張っていくことでしょう。

船橋まさるさんをどうぞよろしくお願いいたします。

花火

毎月9日と19日は「安保法廃止を求めろあひこ市民の会」が我孫子駅で、軍拡による「戦争への道」を進めようとする危険を訴えている。この運動には「あひこ9条の会」などいくつかの団体が参加している▼「9条の会」は2004年、「日本国憲法の改正阻止」を目的として、作家など9人(井上ひさし、梅原猛、大江健三郎、三木睦子、奥平康弘、加藤周一、鶴岡俊輔、小田実、澤地久枝)により結成された社会運動団体である。(澤地久枝さんだけがご存命)

現在全国に7000を超える会があり、運動が広がっている▼1946年憲法が公布されたとき、日本はもう二度と戦争で自分の言いつを通すことはしないという覚悟に体がふるえたと言った井上ひさしさんは、子どものときの誇らしくていい気分を子どもたちに伝えたいと「子どもにつたえる日本国憲法」を書いている。丁寧に分かり易い文、いわさきちひろの絵が優しく、全ページを彩っている▼日本国憲法が施行された1947年。当時中学生だった樋口恵子さんは先生が何時間も憲法の講義をした後も「何条が好き?」などと話題にした。一番人気はやっぱり9条「戦争放棄」だったという。90歳の私が生き延びていられるのは平和憲法のおかげだと記している。今日日本は世界一の長寿国である。(江)

我孫子市議選 勝利への集い

日時 6月24日(土)
午後 2時～4時
場所 こもれび
ホール

内容 情勢報告
我孫子市議選
候補者決意表明

日本共産党
東葛地区委員
我孫子市委員
我孫子市後援会

我孫子市日本共産党が皆さまにお願ひしたアンケートの返信が、850通を超えました。そのうち北地域のものをもとめました。
(重複回答あり)

物価対策として市に望むこと



- ・避難所の拡充 50・4%
- ・要支援者への対策 47・2%
- ・災害備蓄品の拡充 39・8%
- ・自治会・自主防災会への援助と指導 30・9%
- ・無料Wi-Fiの配置拡充 25・2%
- ・いじめの撲滅 43・9%
- ・通学路の安全対策 37・4%
- ・給食費の無償化 30・9%
- ・教員の増員 26・8%
- ・子どもの貧困対策 25・2%
- ・返済不要の奨学金制度の充実 23・6%

防災対策で重視すべきもの



子育て・教育について望むこと



コロナ感染で市に取り組んでほしいこと



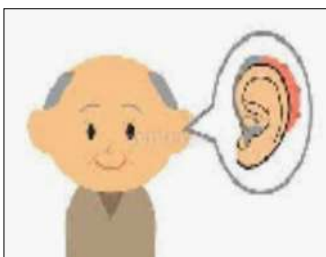
- ・国保高齢者保険料軽減 43・9%
- ・住民税の減税 41・5%
- ・介護保険料軽減 38・2%
- ・市独自の給付金 31・7%
- ・給食費負担軽減 12・2%

医療・福祉介護について望む



- ・国保税の引き下げ 43・1%
- ・後期高齢者保険料2倍化反対 42・3%
- ・訪問介護よりハビリ等の充実 39・0%
- ・介護保険料の引き下げ 38・2%
- ・特別養護老人施設の増設 30・9%

高齢者の難聴に補聴器購入の補助を



- ・補聴器は高い。補助してほしい 43・1%
- ・老化により購入する補聴器は医療保険の対象にしてほしい。高額な補聴器を購入したが、経済的に大変な負担だった。補聴器が高すぎる。年々生活では買えない。

くらしのアンケートを
まとめました

交通や住宅・自然エネルギー 気候危機対策



- ・生活道路の整備 39・8%
- ・空き家対策 31・7%
- ・アビバスの拡充 30・1%
- ・太陽光発電の活用 29・3%
- ・ゴミ持ち込みの有料化の廃止 23・6%

補聴器の補助を求める会の活動

加齢性難聴者を対象にした公的補助を求める声に応え、独自の補助制度を創設した自治体が増えています。

我孫子では「補聴器の補助を求める会」が署名活動を行っています。

この欄は「補聴器の補助を求める会」の会報を参考にしました。

文書でいただいたご意見

- ・共産党がもっと強くならなければ、頑張してほしい。
- ・若手・現役世代をもっと意識した政策を。
- ・現代にふさわしい党名にしてほしい。
- ・子育て世代への手厚いまちづくりを。
- ・歩道整備が十分でない道路が多い。通学路が安全でない(この他多数意見あり)

前月、無投票と低投票率のお陰で、旧統一協会との接点を認めた府県議選候補者の9割が再選されたとの朝日新聞記事を紹介した、公職に就く者としての資質が問われる人物が機械的に議員になっているのだ。

あまり政治的テーマに関わらない日経新聞が選挙関係記事を連発している。

①「自民党勝利の方程式」との記事。

「日本は自民党と無党派層の二大政党制」との珍説。無党派層は、野党支持に傾きがち、無党派層が投票所に行かなければ、自民は勝てる。実例として、今参院補選と同時の大分市長選で自民はあえて対抗馬を出さず、対立候補の大票田である大分市の投票率を低迷させた。

市議選があった他の自民の支持率の高い都市に注力し、補選で辛勝した。

続・無投票ということ

②「無投票当選制の廃止」との政治学者の投書。無投票当選に政治的正統性はない。選挙を実施し法的得票数での足切りをとる主張。

③証券面コラムでは「若年層の政治関与を高める方策」として被選挙権の年齢引き下げ等により、若者の政治に対する関心や影響力を高めようと提案している。

このように経済界は、今統一地方選における無投票・投票率低下に多面的な関心を示している。無投票当選・低投票率を客観的に判断すると健全ではない。多くの選挙で市民感覚を持った候補者が擁立され、投票率が数パーセント上がれば結果(当選者得票ラインは上がり当選者)もオセロの白黒反転のように劇的に違ってくる。

その可能性に対する現状維持を良しとする勢力の危機感の表れであろうか。(香)

先月号5月の訂正
「エレベーター設置完了」の記事で、5月26日は4月26日の誤りでした。お詫びして訂正します。